



★ 高津区地域包括ケアシステム交流会（キラリ事業） ★

# 子どもの居場所づくり

## 講演録・実施報告書

令和7年3月

川崎市 高津区役所

 <p>Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市</p>	 <p>COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th</p>	 <p>Green For All KAWASAKI 2024</p>
---	--	--



## 令和6年度 高津区地域包括ケアシステム交流会 開催概要

日 時： 令和7年3月15日（土）14時～16時（13時30分開場）  
場 所： 高津区役所1階保健ホール  
テ ー マ： 子どもの居場所づくり  
参加者数： 32名

### プログラム：

「子どもの居場所づくり」をテーマに、第1部で自らの活動の参考になるような他の地域活動について3つの団体から紹介いただいた後、第2部交流会では、参加者同士で交流し、実際につながりの輪を広げるワークショップを開催した。

#### 1. 開会挨拶

#### 2. 活動事例紹介（14:05～）

子育てサロン りぼん

吉岡 美穂 さん（橘第一地区主任児童委員）

山田 千明 さん（橘第一地区主任児童委員）

山口 佐栄子 さん（橘第一地区民生委員）

コミュニティスペースみんなの森

松田 美由紀 さん

森田 敢士 さん

はっぴいまま 子ども食堂

戸張 真紀 さん

石田 紅嵐 さん

#### 3. 会場からの質疑応答

#### 4. 交流会（15:10～）

##### 5 グループに分かれワークショップ形式で開催

・アイスブレイク

・グループワーク

→ 『「子どもの居場所づくり」を通してよかったこと、幸せを感じる瞬間』をテーマに意見交換

・ふりかえり

→ 参加者間で今日の時間を過ごしてよかったと感じたこと、これまでのお話から気になる点、疑問、質問を整理

・アクション宣言

→ 今後やってみたいこと、今日話を聞いてやってみようかなと思ったことをグループ毎に整理して、各グループから発表

#### 5. 区役所より事業紹介

・地域福祉活動レポート「たかつハートリレー」について紹介

#### 6. 事務連絡（アンケート協力依頼）

## 令和6年度 高津区地域包括ケアシステム交流会 講演録

子どもたちが安心して過ごせる“居場所”とは何か。令和6年度の高津区地域包括ケアシステム交流会では、地域で実践されている3つの取り組み（「子育てサロン りぼん」、「コミュニティスペース みんなの森」、「はっぴいまま 子ども食堂」）を紹介いただいた後、参加者同士が想いや経験を語り合いました。活動のヒントを得るだけでなく、つながりの輪を広げる場となった本会の様子をお届けします。

### 1. 主催者挨拶

#### 高津区役所地域ケア推進課課長 中山 路都

皆さま、こんにちは。高津区役所 地域みまもり支援センター課長の中山でございます。

本日は、土曜日の午後という貴重なお時間にもかかわらず、これほど多くの皆さまに高津区役所までお越しいただき、誠にありがとうございます。

「地域包括ケアシステム交流会 ～子どもの居場所づくり～」にご参加いただき、心より感謝申し上げます。高津区役所では、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを目指し、日々さまざまな取り組みを行っております。

本日はその一環として、「子どもの居場所づくり」をテーマに交流会を開催いたしました。区内で子どもに関わる活動をされている3つの団体の皆さまにご登壇いただき、それぞれの取り組みをご紹介します。その後のグループワークでは、参加者の皆さまと一緒に考え、意見を交わしながら、子どもたちのために私たちができることを共有できればと考えております。

本日は、皆さまにとって学びや気づきのある時間となり、今後の活動のヒントをお持ち帰りいただければ幸いです。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。



## II. 第1部・活動事例紹介

### 1. 子育てサロン りぼん 活動紹介

子育てサロン りぼん 吉岡 美穂 さん

私は主任指導員を務めており、主任児童委員として18年目になります。その活動の中で子育てサロンを運営しており、また区役所が主催する「あつまれ！キッズ」のお手伝いもさせていただいております。

活動を続ける中で、私の住んでいる地域の近隣の方々がなかなか参加しないことに気づき、地域で同様の場を作れたらいいなと思ったものの、自分が主催することまでは考えていませんでした。「誰かがやってくれるだろう」と思っていたのですが、待てど暮らせど始まる気配がなく…。

そんな時、この活動について仲間と話をしたところ、「場所さえあればできるのにね」という話になりました。すると、山口さんが「あそこなら借りられるよ！」と提案してくれたのです。そうして、小学校の隣にある市営末長宗田住宅の集会所をお借りし、活動をスタートすることになりました。

本来、その集会所は宗田住宅に住む方々のための施設でしたが、管理されている方に相談したところ、「ぜひやってください！」と快く承諾していただけました。場所が決まるとすぐに準備が進み、2～3か月で活動を開始することができました。

この活動では、特に何か特別なプログラムを提供するのではなく、「ママたちが気軽に集まれる場」としての役割を大切にしています。最初から大勢を集めるつもりはなく、1組でも参加してくれれば良い、たとえ参加者がゼロでも、今後の方針を考える機会になると思っていました。

集会所に6畳ほどのスペースがあり、環境を整えるためにマットを購入しようと考えていました。そんな時、山田さんが「うちの町会で使っていた子育てサロンの備品があるから、聞いてみるね」と申し出てくれました。町会の方々も快く「どうぞ使ってください」と承諾してくださり、思いのほかスムーズに準備が整いました。さらに、集会所の管理者の方が押し入れを片付けてくれ、おもちゃなども常備できるようになりました。

また、毎回の活動ではちょっとしたお土産として、季節に合わせた折り紙リースを作り、持ち帰ってもらう取り組みもしています。写真の右上にあるリボンは、毎回その折り紙リースに貼るものです。

今後はグループワークの中で、参加者の皆さんから「こんな時はどうすれば？」といった意見を聞きながら、活動をより充実させていきたいと考えています。実際、まだ開始して間もなく、これまでに3回しか開催していません。そのうち1回は大雨で参加者ゼロでしたが、最初は1組、次は4組と、少しずつ参加者が増えてきています。参加されたママたちと楽しく会話ができる場になっており、私たち自身も現在の子育て事情について学ぶことができています。

将来的には、異なる世代の方々とも交流できる場へと発展させていきたいと考えています。



## 子育てサロン りぼん 山口 佐栄子 さん

私は民生委員を9年間続けております。民生委員としての仕事も正直なところ、まだ完全にできているとは思っていませんが、地域のために少しでも役に立てればという思いをずっと持ち続けています。

今回、吉岡さんからお誘いいただき、この活動に関わることになりました。ただ、正直に申し上げますと、私は子どもがいませんし子育ての経験もありません。しかし、吉岡さんや山田さんのお力を借りながら、何とか一緒にこの「りぼん」という活動をより良いものにしていきたいと考えています。

私自身、皆さんよりも知識が浅く、本当にゼロからの学びになりますが、それでも少しずつ、ママさんたちの癒しになれたり、お話し相手になれたりすればいいなと思っています。これからも頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします！



## 子育てサロン りぼん 山田 千明 さん

私は末長に住んでおり、末長町会に所属しています。コロナ禍前までは子育てサークルを運営していましたが、順調に軌道に乗り始めた矢先にコロナ禍となり、活動を休止せざるを得ませんでした。その後、なかなか再開の機会を見つけられず、もどかしい気持ちを抱えていました。

そんな中、吉岡さんからお話をいただき、この活動に参加させていただくことになりました。私自身も主任児童委員を務めており、小さなお子さんを連れのお母さんたちと接する機会が多くあります。最近では、お父さんも積極的に子育てに関わる家庭が増えていると感じますが、それでもまだ多くのお母さんが赤ちゃんとの二人きりの時間を長く過ごしているのが現状です。

この活動を通じて、そんなお母さんたちが気軽に話せる場を提供できればと思っています。私たち自身も、お母さんたちとの交流を通じて、今の子育て事情を学んだり、赤ちゃんの笑顔に癒されたりすることができています。これからも楽しく活動を続けていきたいと思っております。

以上、私たち3人で活動を進めていますが、今後は少しずつお手伝いして下さる方を増やしながらか、さらに広げていけたらと思っています。

「1号店」というわけではありませんが、地域ごとに同じような居場所が増え、2号店、3号店と広がっていけば理想的ですね。

拙いお話でしたが、お聞きいただきありがとうございます。本日は本当にありがとうございました。



## 2. コミュニティスペース みんなの森 活動紹介

### コミュニティスペース みんなの森 松田 美由紀 さん

本日、お手元に資料を配布させていただきました。見えにくい部分はお手元でご確認いただければと思います。また、資料にはない写真も画面でご覧いただけるように準備しておりますので、適宜、画面の方もご覧ください。よろしくお願いいたします。



では、早速ですが、本日お話しする内容は大きく4つです。

1. 私自身のこと
2. 「コミュニティスペース みんなの森」を立ち上げた背景と経緯
3. 子どもの居場所としてどのような活動をしているか
4. 皆さんが何か始めたい、運営に困っているといった際にお手伝いできること

それでは、まず私自身のことをご紹介させていただきます。

私は「みるねえ」という名前で活動しています。気軽に「みるねえ」と呼んでいただくと嬉しいです。二児の母で、今年の春から長男が中学生、次男が小学5年生になります。趣味はアウトドアもインドアも両方楽しむこと。幼い頃から活発で、男の子のような遊びが好きな女の子でした。



私は北関東の農家の孫として生まれ、実家では母が今も田畑を管理しています。田舎暮らしの大変さを感じつつ、私は大学の教育学部で情報教育を学び、新卒で川崎市のIT企業に就職しました。システムエンジニアとして14年間勤務していましたが、実は学生時代から子どもと関わるのが好きで、塾講師や市民活動センターのサポート、スイミングスクールのコーチなどのアルバイトをしていました。

そんな背景があり、現在の「コミュニティスペース みんなの森」の運営につながっています。私は会社を辞めてこのスペースを立ち上げましたが、実は突然の脱サラではなく、2017年頃からボランティアとしてプログラミングやものづくりを通じた場づくりを行ってきました。本日は、その経緯についてもお話ししたいと思います。



### (1) 居場所を作ろうと思った理由

私はフルタイムで働くワーキングマザーでした。夫も同じくシステムエンジニアで、共働きが当たり前の環境でした。第一子の育児休暇を1年取得し、復職することも当然の流れだと考えていました。しかし、実際に仕事と家庭の両立をしてみると、思うようにはいきませんでした。

特に、第二子が生まれたときにはキャパオーバーになりました。2人の子どもを自転車の前後に乗せ、保育園の送り迎えをしながら、子どもが熱を出すたびに私に最初に連絡が来る。仕事に責任を持ちながらも、なぜ自分ばかりが育児の負担を負うのかと、夫との関係にも大きなストレスを抱えました。

その結果、精神的に追い詰められ、心療内科に通っていた時期もありました。しかし、仕事なくなることは私にとって耐えがたく、なんとか職場と相談しながら両立を続け

ていました。そんな中、保育園で知り合ったママ友たちが支えとなり、「ご飯に行こう」、「話を聞くよ」と声をかけてもらい、何とか心を保つことができました。この経験を踏じて、「私は何者なのか」、「本当にやりたいことは何か」と考えるようになりました。そして、偶然、全国でコミュニティカフェを運営する人々がいることを知り、都内で開催されていた講座に飛び込みました。

そこで「地域に根ざした居場所づくり」に強く共感し、私の過去の想いとつながるものを感じました。学びを深めるうちに、「いつかやりたい夢」だったものが、少しずつ具体化し始めました。

## (2) 活動の始まりとみんなの森の成長

2018年、全国交流会に登壇し、「コミュニティスペース みんなの森」の元となる事業プランを発表しました。当時は会社を辞めるつもりはなく、「いつかできたらいいな」という程度の夢でした。しかし、講座の講師陣から「その夢を夢のままにしないでください」、「今できることを少しずつ始めてみませんか?」と言われたことがきっかけとなり、まずは地域の町内会館や市民館を借りて、小さく場作りを始めることにしました。



私の強みは IT 分野だったため、デジタル技術を活用して親子とつながれる場作りに取り組みました。2018年からは、地域でプログラミングやものづくりの活動を始めました。同時に、先輩方のプログラムに参加し、どのように子どもたちと関わっていくかを学びました。

私自身が主催する活動として、未就学児から小学生を対象に、パソコンやタブレットを使ったプログラミングやものづくりのワークショップを行う場を設けました。2023年までの間に、合計140回以上のイベントを開催し、延べ800名近くの親子が参加してくれました。

この活動は市民活動の一環として行い、参加費は場所代をまかなう程度の金額で募集し、都度予約制で運営してきました。

ここまでの、私が「みんなの森」を立ち上げるに至った背景と、現在の活動内容についてのお話です。

この先は、「子どもの居場所」として、どのように子どもたちと接点を作っているのか、そして今後どのように皆さんと協力できるかについてお話ししたいと思います。

現在、私たちは Instagram をメインに情報を発信し、お問い合わせは公式 LINE や電話でも受け付けています。私は街づくりにも関心があり、地域のイベント情報を収集して店頭に掲示するなど、少しでも地域の方々に情報が届くように心がけています。

## (3) コミュニティスペースの発展と子どもとの接点づくり

私たちは、コロナ禍の中でも活動を続けたいという思いから、オンラインと対面のハイブリッド形式を導入しました。参加者同士の距離を確保し、パーテーションを設置したり、オンラインでの参加を可能にすることで、子どもたちとのつながりを途切れさせずに活動を継続することができました。この取り組みが結果的に私たちの強みとなり、スムーズに適応できたことは良かったと感じています。

こうした活動を基盤に、2021年に自分たちの拠点を持つことになりました。このスペースを通じて、地域のさまざまな活動に興味を持つ方々とつながり、新たな市民活動の立ち上げや、お試し講座の開催、ウェブサイト作成の支援など、多くの出会いが生まれました。今年の7月で丸4年を迎えます。

みんなの森では、多様な関わり方を通じて、子どもたちとの緩やかなつながりを大切にしています。



### ① 駄菓子屋の運営：10円につながる場所

みんなの森では、駄菓子屋を運営しており、放課後に子どもたちが気軽に立ち寄れる場所となっています。子どもたちは10円の飴玉を買いに来るだけでも、お店の人や周りの子と会話をする機会が生まれます。

また、子どもたちが衝動的に大量にお菓子を買おうとした際には、「なんでこんなに買うの?」と問いかけることで、金銭感覚を学ぶ機会にもなっています。地域のおばあちゃんのように声をかけることで、子どもたちがちょっとした社会性を育む場になればと考えています。

### ② プログラミング・ものづくり：作り手の視点を育む

みんなの森では、プログラミングやハンドメイドを通して、子どもたちが「作り手の視点」を持つことを大切にしています。現代は、既製品を当たり前のように消費する時代ですが、すべてのものには作り手がいることを知ってほしい。子どもたちが、「自分でも形にできるかもしれない」と想像し、創造力を育むことを目的に、ハンドメイド作家さんと連携したワークショップなどを開催しています。

### ③ 森の寺子屋：学校に行かない子のための居場所

平日の午前中、行く場所がなく自宅で過ごしている子どもたちのために、「森の寺子屋」を開放しています。実は私の次男も「学校が嫌いだから」ではなく、「学校という場所で学ぶことが合わない」という理由で通学していません。こうした子どもたちは、全国に増えています。そのため、「何もしなくてもいいから、とりあえずここにおいで」という形で居場所を作りました。そうすると、同じような悩みを持つお母さんたちからの相談が増え、自然と仲間が広がっていきました。

### ④ 無料開放：街のリビングとしての役割

みんなの森は、イベントや予約が入っていない時間に「無料開放」を行い、放課後の公園のように自由に過ごせる場として開放しています。

子どもたちはゲーム機を持ち寄りたり、お菓子を食べながらゴロゴロしたりしながら、リラックスして過ごしています。顔を合わせて会話をする機会が減るデジタル世代ですが、やはり子どもたちは直接コミュニケーションを取ることが大好きです。

こうした経験を通じて、「優しさのリレー」を育み、地域の中で子どもたちが成長できる場を提供したいと考えています。

### ⑤ 地域との連携と広がり

みんなの森では、さまざまな形で地域とつながりながら活動を広げています。

・駄菓子の販売・注文対応：

地域の小学校・中学校からの注文を受け、卒業記念会や子ども会のイベントなどに

駄菓子を提供。

- ・地域のB型就労支援施設との連携：  
無農薬野菜を代理販売し、地域の生産者支援を行う。
- ・シングルマザー支援団体とのコラボ：  
買い物体験のワークショップを駄菓子屋として提供。
- ・図書館ボランティアとの協力：  
無料開放日に絵本の読み聞かせを実施。
- ・デジタルを活用したコミュニケーションの場：  
大画面モニターを活用し、子どもたちが持ち込んだゲームで協力プレイをしながら交流できる環境を提供。

#### (4) みんな森キッズについて

本日は、隣にいる森田君がリーダーを務める「みんな森キッズ」についてもご紹介いたします。このチームは、小中学生が自ら企画・運営を行うイベントチームです。

数年前に「何かやってみたい!」という声から生まれた、子どもたち自身が企画・運営を行うイベントチームです。このチームの詳細については、森田君に紹介してもらいます。よろしくお願いします!

### コミュニティスペースみんなの森 森田 敢士 さん

みんな森キッズは、自分たちでイベントやお祭りを企画・運営するチームで、自らお祭りやイベントの企画・運営をしたいという意欲を持った子どもたちの集まりです。現在、小学4年生から中学1年生までの男女13名が参加しています。夏祭りやハロウィンなどのイベントをはじめ、子どもたち自身が「やりたい!」と思ったことを実際に形にしています。



企画から運営までをメンバーが主体的に行い、景品やゲームの内容なども一人ひとりが考えています。最近では、チームTシャツも作成し、活動の幅がさらに広がっています。また、地域のイベントにも声をかけていただく機会が増え、より大きな活動へと発展しています。

活動の様子 (写真の説明)

- ・左上：夏祭りの様子
- ・左下：溝の口で開催した「木にまつわるイベント」
- ・右上：夏祭りの準備風景。  
ポップや装飾を作成し、チームごとに屋台やゲームのブースを準備。
- ・右下：今年の初めに開催した「見守りの 今年もよろしく祭り」の様子

みんな森キッズは、お互いに協力しながら、地域の人々とのつながりを大切に、イベントを作り上げていく場として、次の5つに注意しながら活動を進めています。

1. 地域の人のかたちを想像しながら準備・判断をすること
  - ・どんな人が参加するのか、どんなものが喜ばれるのかを考えながら企画を進める。
2. お金の大切さを考え、自分で考えたことを試してみること

- ・ どうしても商品が売れるのか、ゲームをより楽しんでもらえるのかを考え、実践する。
3. 時には失敗も経験し、それをチームの成長につなげること
    - ・ ミスをした時も、それを「良い経験」として受け止め、学びの機会とする。
  4. みんなで協力し、誰かに喜びを届ける楽しさを経験すること
    - ・ イベントを通して、関わった人たちと一緒に、誰かに喜んでもらうことの楽しさを実感する。
  5. チームとして目標に向かい、1人1人が挑戦できる場をつくること
    - ・ メンバー全員が、それぞれの役割を持ち、挑戦できる環境をみんなで支え合う。

**みん森キッズ**

**大切にしていること**

1. この地域の人のことを想像しながら準備・活動すること
2. お金の大切さを考え、どうしたらモノや体験が売れるか、自分で考え、考えた方法をやってみること
3. 時には嫌な経験も、自分のミスも全部ひっくるめて、みんなで支え合い、チームで良い経験として考えられるようになること
4. 一緒に関わった人とみんなで誰かに届ける楽しさを経験すること
5. チームとして目標に向かって一人一人が挑戦できる場をみんなで作ること

©コミュニティスペースみんなの森 2025 12

これから、みん森キッズには「やる気のある仲間」がもっと増えてほしいと思っています。単に人数が多ければいいというわけではなく、「自分で何かやってみたい！」という気持ちを持った人たちと一緒に活動できたら嬉しいです。

「こんな活動に興味がある！」という子がいたら、ぜひ一緒にやっていきたいと思っています。

さいごに-----

「何かやってみたいけれど、どうしたらいいかわからない」

「こんなアイデアがあるけれど、試せる場所がない」

「誰か紹介してほしい」「この街にこんな人はいないかな？」

そんな思いを持っている方がいれば、ぜひお声がけください。私とつながることで、何かしらの形で一緒にこの町の未来を考えていけたら嬉しいです。

ご連絡をお待ちしています！

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。



### 3. はっぴいまま子ども食堂 活動紹介 はっぴいまま子ども食堂 戸張 真紀さん

まず、少し自己紹介をさせていただきます。私はこの地に生まれ育ち、ずっとこの地域で暮らしてきました。現在、司会業やオンライン講師を務めながら、高津区を中心に慰問活動をしており、そして日本歌手協会にも所属しております。

子育てについてですが、私は3人の子どもの母親です。3番目の子を妊娠中にひとり親となり、それ以来、一人で子育てをしてきました。



最初は自宅での育児を中心に行いながらも、裸育児・自然育児を取り入れ、子どもたちに自然と触れ合う環境を提供してきました。実家の畑を開放してもらい、土を耕したり、自然の中で活動したりする育児スタイルを実践し、当時、50人以上の方が登録してくださるほどの広がりを見せました。

また、「高津子どもまつり」にも携わってきました。覚えていらっしゃる方もいるかもしれませんが、こうした地域活動を振り返ると、ボランティア活動を含めて35年もの間、関わり続けてきたこととなります。

#### (1) すべての大人が、すべての子どもの親になる社会へ

私たちは、「すべての大人が、すべての子どもの親になる社会」を目指し、取り組みを続けています。近年、地域のつながりが薄れ、近所の人の顔も知らない、地域の大人が子どもを見守る文化がなくなると言われることが増えました。「見て見ぬふり」が当たり前になりつつある現状に、私は危機感を持っています。「誰かが気にするだろう」、「行政がなんとかするだろう」と思っているうちに、誰も何もしないままになってしまう—そんな状況を変えたいと考えています。



以前、私が用水路を歩いていたときのことで、何人かの子どもたちが石を投げました。ふと覗き込むと、母鳥が5羽の子どもたちを必死に守ろうとしていました。思わず私は、「何をしているの？かわいそうじゃない！」と声をかけました。しかし、子どもたちは「何この人？」という顔をするだけで、私の言葉に反応せず、そのまま走り去ってしまいました。

後になってこの話をすると、「そんなことをしたら、あなたが危険な目に遭うよ」と言われました。確かに、昔は地域の大人が子どもを叱ることが普通でした。しかし、今ではそれすらも許されない風潮があり、地域の大人が子どもたちに関われなくなっていることに、寂しさを感じました。

#### (2) 子ども食堂の意義 食事だけではない、心の居場所づくり

私が子ども食堂をやりたいと強く思ったきっかけは、自分自身の経験です。私もひとり親として子育てをし、大変な思いをしてきました。その苦労を思い出しながら、今、孫の成長を見守る中で、「地域の大人が子どもを見守る、関わる、支える社会を作りたい」と改めて考えました。

また、最近では「1人で食事をする子どもたちがいる」という現実を知り、衝撃を受けました。「お母さんが遅いから」「お父さんも帰りが遅いから」—そうして、ひとりぼっちで食事をする子どもがいる。私たちのホールは通学路に面しており、帰りが遅い子

どもたちが通ることもあります。「もう遅いから帰りなさい」と声をかけると、「誰も家にいないから帰っても仕方ない」と言われることもありました。共働き世帯が増える中で、子どもたちの孤独を感じる場面が増えていると実感しました。

「子ども食堂」は、単に食事を提供する場ではありません。

- ・話を聞いてくれる大人がいる
- ・きちんと叱ってくれる人がある
- ・一緒に笑ってくれる仲間がいる

そういった心のつながりが生まれる場所が、今の社会には必要なのではないかと思います。また、「子どもだけでなく、高齢者や障がいのある方など、すべての人がつながれる場所」を目指し、地域包括ケアの一環として活動を進めています。

地域の大人ができることとして

1. すべての子どもたちのお父さん・お母さんになろう！
  - ・「関係ない」ではなく、「私たちの子ども」と思う気持ちを持つ。
2. 「昔はよかった」ではなく、「今を変える」意識を持とう！
  - ・変化を恐れず、今できることに目を向ける。
3. 見て見ぬふりをせず、子どもたちの未来を守ろう！
  - ・小さなことから行動を起こし、少しずつ地域に広めていく。

皆さんも、心のどこかで「何かしたい」と思っているのではないのでしょうか？  
しかし、実際に行動に移すことが難しいと感じている方も多いかもかもしれません。  
だからこそ、「誰かが声を上げること」が大切です。

### (3) 子ども食堂の活動

私たちは、現在月2回（第一・第四水曜日）に子ども食堂を開催しており、今後は月3回に増やす予定です。コロナ禍では、貸しホールを利用して子ども食堂が開催できなくなることが多くありました。しかし、私たちは自分のホールを使っていたため、コロナだからこそ、より一層「子ども食堂を続ける意義」を感じながら活動をしてきました。

最初は、近所のお店にチラシを置かせてもらうところからスタートし、当初は子どもと大人を合わせても30人程度でしたが、今では70人以上が集まるようになりました。特に最近では、「開始10分で予約が埋まる」という状況になっており、今後の運営方法についても検討しているところです。

私たちは、寄付を募りながら活動を継続しています。申請作業は大変ですが、補助金を獲得できた際には、イベントゲストを招待することにしています。例えば、バルーンアーティストのキャサリンさんを招いた際は、100人以上が来場しました。また、プロの人形劇団「にんぎょうげきだん つきはたる」さんを招いた際には、子どもたちが真剣に劇を観てとても楽しんでくれました。

毎回、お弁当を提供し、寄付によるプレゼントとして、お米の配布（スタンプを5回集めたら特典）や生活保護を受けている方や支援を必要とする家庭へのサポートを行っています。しかし、現在、個人情報保護の関係で、支援を必要とする方の情報が得られにくい状況になっています。そのため、支援を受けるべき人たちにどうやって情報を届けるか、新たな方法を模索しているところです。



#### (4) 「戸張一座」の活動

もともと名もなき団体からスタートした私たちは、現在戸張一座という団体として活動しています。この活動は、母から私へ、私から子どもへ、さらに孫へと引き継がれています。子どもたちの未来を支え続けるために、これからも皆さんと一緒に考え、行動していきたいと思っています。

(YouTube 動画上映)

私たちは、市を中心に大学や介護施設への慰問活動を行っています。吟士 高津川真紀としての詩吟の活動だけでなく、歌や踊り、さらにはお笑いの要素も取り入れ、皆さんに楽しんでいただけるよう工夫しています。また、ただ「見ていただく」だけでなく、一緒に参加できるプログラムも取り入れ、より交流を深めることを大切にしています。

現在、私の弟子たちもコンクールに向けて日々努力を重ねています。また、お客様の前でも堂々と披露できるよう、舞台に立つ機会を大切にしています。

私たちの舞台は、詩吟だけにとどまらず、より多くの方が楽しめるように工夫しています。

- ・ 歌あり、踊りあり、漫才あり！
- ・ 見ているだけでなく、皆さんも一緒に楽しめる参加型の舞台！

毎回、新しい演目を取り入れ、観客の皆さんに「笑顔と元気、そして勇氣」をお届けできるよう努めています。また、オンラインでのレッスンも実施しており、簡単に学ぶことができます。

ご興味のある方は、ぜひ気軽にご参加ください！ お待ちしています！

地域で子どもたちを支える輪を広げよう！  
私たちが動けば、未来は変わります。

これからも、子ども食堂、そして戸張一座とともに、力強く活動を続けていきます！ 本日は、ありがとうございました！



#### 4. 質疑応答

Q：戸張さんに質問です。子ども食堂の開催場所はどのあたりでしょうか？

A：はい、高津区の北見方にあります。第三京浜の側道沿いにホールがあり、そこで私たちは活動や練習を行っています。また、慰問についてはどこへでも訪問し、活動を続けています。

交流会では、参加者が5グループに分かれ、参加者同士で約1時間にわたって「子どもの居場所づくり」について意見交換を行いました。グループワークでは、「子どもの居場所づくりを通して良かったことや、幸せを感じる瞬間」をテーマに意見が交わされ、最後に参加者それぞれが「今後やってみたいこと」について意見を共有しました。(以下は、各グループの結果発表を取りまとめたものです)。

### Ⅲ. 第2部・交流会 ワークショップ

#### 1. 開催総括

本ワークショップでは、地域で福祉活動に関わる多様な参加者が5つのグループに分かれ、それぞれの関心や実践、課題について率直に意見を交わしました。グループごとの対話を通じて、地域での活動がいかに人々の思いに支えられ、またその思いが新たな一歩を踏み出すきっかけとなっていることが浮き彫りになりました。

特に印象的だったのは、「もっと現場を見てみたい」、「子ども食堂を手伝いたい」、「もう一度活動を始めてみたい」といった、参加者同士の関心が高まり、次の行動につながる前向きな声が多く上がったことです。個々の活動がつながり合うことで、地域の中で新たなネットワークが形成される可能性も感じられました。

また、活動を始めたばかりの方にとっては、「どのように情報を発信し、輪を広げていくか」という課題が共有され、経験者の知見や仲間との出会いが、今後の支えとなることが期待されます。子どもの年齢や関心の違いをどう調整するかといった実践的な悩みにも、グループ内で真剣な対話がなされました。

「同じ思いを持つ人がこんなにいるとは思わなかった」という言葉には、多くの共感が集まりました。共に語り合うことで得られる安心感や、新たな出会いから生まれるエネルギーが、活動の原動力になっていくことを実感しました。親子支援や気軽に集える場づくりへの関心も高く、今後のアクションにつながる可能性が示されました。

さらに、世代を超えた交流が実現し、若い世代が地域活動への関心を示す場面も多く見られました。経験を重ねた世代との意見交換を通じて、持続的なつながりの築き方についても議論が深まりました。

特に5グループでは、異なる分野で活動する参加者同士の交流が活発に行われ、実践的なアイデアや課題解決のヒントが飛び交いました。子ども食堂の周知の工夫や、大人・高齢者も含めた交流の場づくりの必要性が共有されるなど、多様性の中にこそ可能性があることが感じられました。アイスブレイクとして、個人の小さな喜びを共有する和やかな時間もあり、地域活動が人と人を温かくつなげる場であることが再認識されました。

本ワークショップは、単なる意見交換の場にとどまらず、参加者一人ひとりの思いが交差し、これからの地域を共に形づくる第一歩となる時間でした。今後もこうした対話とつながりを大切にしながら、地域に根ざした福祉の輪を広げていくことが求められます。











## 5 グループ発表

5グループでは、多様なバックグラウンドを持つ参加者が集まりました。子ども食堂の運営者、地域SNSの発信者、高齢者支援に携わる方などが一堂に会し、多岐にわたる話ができることがとても楽しかったという感想が出ました。

また、具体的な課題として、子ども食堂の利用者を増やすための工夫が話し合われました。

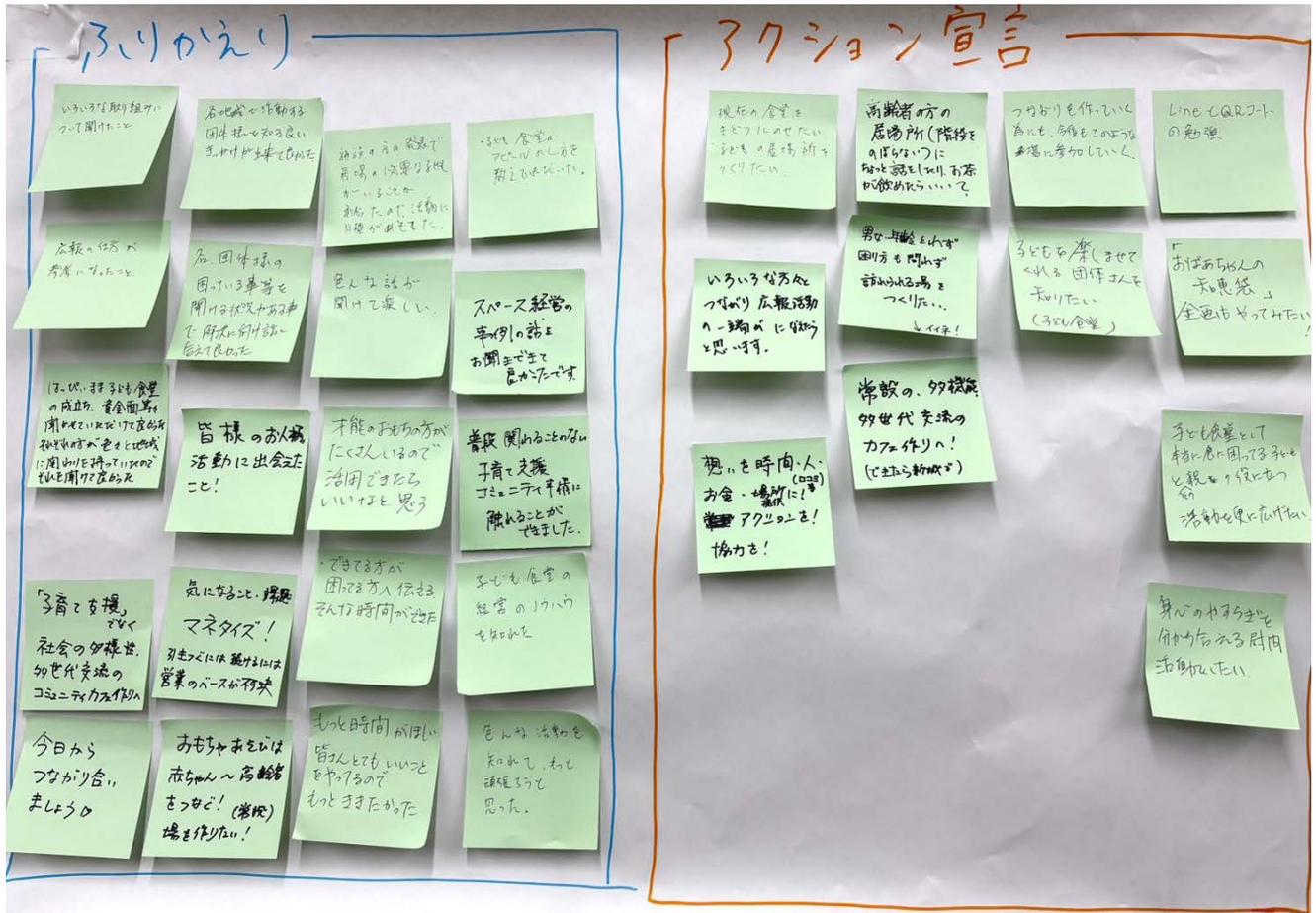
現代の若い世代は電話での予約をあまりしないため、LINE登録を促すことが重要であることが分かりました。そのために、まずはアナログな手法（地域掲示板や口コミ）を活用し、徐々にオンラインへと誘導することが効果的であるとの意見が出ました。

また、子ども食堂に限らず、大人や高齢者も集まれる場を作りたいという声も上がりました。

コロナ禍を経て、こうして顔を合わせて話せる機会の大切さを実感し、今後も地域をより良くする活動を続けていきたいと思えます。



### 【ワークショップ・5グループの意見】



終了後 集合写真

---



## 交流会 アンケート結果

今回の交流会への参加者から、アンケート調査を通じて多くの貴重なご意見・ご感想を頂きました。以下に、その主な内容をまとめました。アンケート総数 32 件の回答から、参加者の高い満足度とともに、今後に向けた貴重な意見が多く寄せられました。

(アンケート総数 N=32)

### VI. アンケート結果

#### 1. 活動事例紹介について

まず、「活動事例紹介」については、多くの方から「とてもよかった」「よかった」という高い評価が寄せられました。特に、活動を始めたばかりの団体から、すでに継続的に取り組んでいる団体まで、幅広い事例を聞くことができた点や、それぞれの活動に込められた想いや背景に触れられた点が、参加者の学びや刺激となったことがうかがえました。また、具体的な支援の形や関わる職種の多様性について知ることができたことも評価されています。

#### 2. 交流会について

「交流会」についても、「とてもよかった」とする声が多数を占め、さまざまな立場や職種の方々と直接対話ができたと高く評価されました。特に、保育士や看護師、公衆衛生看護師など、地域には実は多様な専門職が関わっていることを知る機会になったとの声や、グループでの対話を通じて想いを共有し、活動の困りごとを話し合えたことが有意義だったという意見がありました。多世代間の交流も自然と生まれており、地域におけるつながりの可能性を感じる場になったようです。一方で、「時間が足りなかった」「話し合いをもっと深めたかった」といった声も複数あり、今後は交流の時間をより確保する必要があることが明らかになりました。

#### 3. 「子どもの居場所づくり」に関する理解

また、「子どもの居場所づくり」に関する理解については、多くの参加者が「理解が深まった」と回答しています。子ども食堂などの具体的な活動の実態を知ることができたことや、一人ひとりに合った居場所の必要性、さらには行政の支援や活動同士の連携の重要性について、再認識するきっかけとなったという声が多数寄せられました。中には「活動への意欲がさらに湧いた」という前向きな感想も見られました。一方、「子育てが終わっているため実感がわからない」など、ライフステージによって感じ方に差があることも伺えました。

#### 4. 全体を通じての意見や感想

全体を通じての自由記述からは、地域で活動されている多くの方々の存在を知ることができたこと、多世代間のつながりが生まれたことへの感謝や喜びの声が多数寄せられました。「非常に活気のある場だった」「楽しかった」といったポジティブな感想が多く見られた一方で、「もっと深く話す時間が欲しかった」「事例紹介と交流会の時間配分を見直してほしい」といった運営上の改善点も挙げられています。

## 5. 今後、取り上げてほしいテーマ

今後取り上げてほしいテーマとしては、子どもの自殺や思春期の親へのサポートなど、より深刻で切実な課題への関心が寄せられました。また、「実践の場づくり」や「行政と支援機関の連携」など、制度や仕組みへの期待も見られ、今後のテーマ設定において参考となる提案が多数寄せられました。

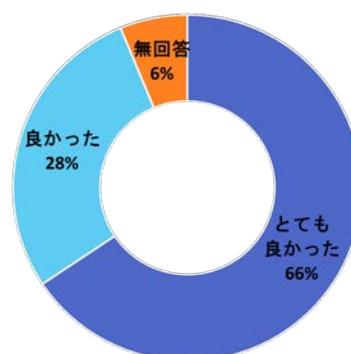
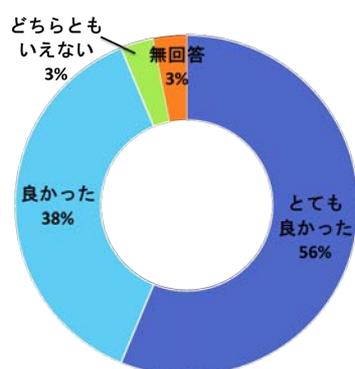
最後に、現在の地域活動については少数ながら「子育てサークル」や「認知症カフェ」などに関わっている方が見られ、地域に根差した取り組みが着実に行われていることがうかがえます。

今回の交流会は、参加者にとって多くの気づきと学びを得られる場となり、地域のつながりや子どもの居場所づくりに関する意識を高める大きなきっかけとなったことが明らかとなりました。

### ①本日の交流会に参加して、どのような感想をもちましたか。

#### 1) 「活動事例紹介」について

#### 2) 「交流会」について



#### 1) 「活動事例紹介」について

##### 【とてもよかったの理由】

- 活動を始めた方からしっかり進めている方まで幅広く聞けてよかった。
- 活動されている方々の想いが聞けてよかった。
- 様々な職種の方々の意見（想い）を聞いた。
- 様々な支援の仕方について話を聞くことができ、いい勉強になった。
- 地域の方々の活動を知ることができました。まだ始めたばかりとのことでしたが、その段階での紹介というのもよかった。
- 知ってはいたが具体的な中身を知ることができてよかった。
- 新しい団体を知ることができてよかった。
- 改めてきっかけなどに触れることができた。初めて知る活動があった。
- 皆様の素敵な活動を知ることができた。
- どの活動も知らなかったので知る機会ができてよかった。
- 活動状況がよくわかりました。
- 新鮮なテーマで参考になった。
- 参考になった。
- 様々な方々とたくさん話ができてよかった。
- みなさん想いをもちてやっておられ、励みになった。

### 【よかったの理由】

- みるねえとみん森キッズのお話がよかった。タイムキープした方が良かったと思った。
- 「子どもの居場所づくり」と聞いてもなかなか活動内容はわからないので話を聞いたのでよかった。
- まずは知ることから、と思うので対面で聞いてよかった。
- 地域のことなどを多く知れた。
- 様々な活動をされているのだなと感心しました。

### 【どちらともいえないの理由】

- 拙い紹介で申し訳ありませんでした。

## 2) 「交流会」について

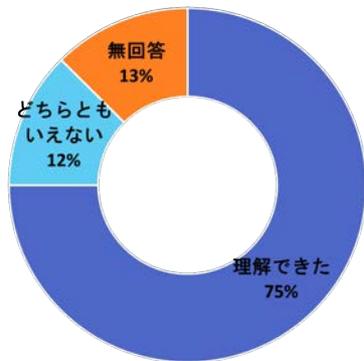
### 【とてもよかったの理由】

- それぞれの立場でのご意見を伺うことができた。知らなかった場所に次回伺ってみようと思う。
- 色々な立場の方々の話が聞いてよかった。
- 様々な職種の方の意見（想い）を聞いた。
- 様々なバックを持つ方 保育士、NS、PHN など職種を持つ方が実は地域に何人もいるということを知れてよかった。
- 初めて知り合えた。想いを共有できた。
- 様々な活動されていることがわかったから。
- 様々な人と話ができてよかった
- 様々な方と話せてよかった。
- グループだと質問もしやすく話しやすかった。
- 多世代交流できてよかった。
- 同じ想いを持った方々と出会え、意見交換ができた。
- 活動する上での困り事等を皆で話し合い解決へつなげた。
- 様々な世代の方がいてよかった。
- 心、愛ある方ばかりだった。
- 意見がとても充実していてよかった。

### 【よかったの理由】

- 皆さんの話が聞くことができ、今後の参考になった。
- 聞いて今後の参考になった。
- 実際に活動されている方のお話を聞くことができてよかった。
- 居場所や支援者が多様であることに気づいた。
- 地域の人たちに深く交流ができた。
- よく構造化が図られていて話が進んだと感じた。
- この意見が現実に取り上げられることを願います。
- グループワークの時間配分が難しかった。
- 時間が長くてもいいかと思いました。

②あなたは、本日の交流会を通じて、子どもの居場所づくりについての理解が深まりましたか。



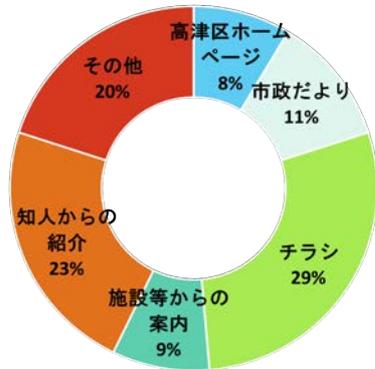
**【理解できたの理由】**

- 自身の活動の参考になった。
- 多様な関心を持つ方々が集まっており、参考になった。
- 子ども食堂の実態を知ることができた。
- 子ども食堂の存在を知ることができた。
- こどもの居場所づくりは大切なことであると再認識できた。
- 食堂だけでなく、子育ての支援があることによって居場所になることがわかった。
- 一人一人の子どものに適した場所が必要だと思った。
- 皆さんが様々な課題を抱えて活動しておられることが分かり、区や市からの支援が必要だと感じた。また、活動同士のつながりをさらに深めていく必要もあると感じた。
- それぞれの家庭には様々な事情があり、支援を必要としている人や、それを待っている人、不安を抱える人がいる。個人情報保護の課題はあるものの、そうした想いを共有できる場が必要だと感じた。
- 様々な方々のお話が聞けたのがとてもよかった。
- 今まで以上に意欲が湧いてきた。

**【どちらともいえない理由】**

- 自分が子育てが終わってしまい孫もまだいないので、実感がわからないのでなんとも言えない。
- 時間が足りなかった。

③今回の交流会の開催を何で知ったか。(複数選択可)



【チラシ（場所）の内容】

- 区役所
- 区役所、市民館
- 民生
- タウンニュース
- 郵送

【その他の内容】

- 地ケアさんから団体へ案内をいただいた。
- 民生委員
- フェイスブック
- 区からのメール
- 区役所よりご案内をいただいた
- 郵送でチラシが来た
- 郵便物

④全体を通じてのご意見や感想があれば、ご自由にお書きください。

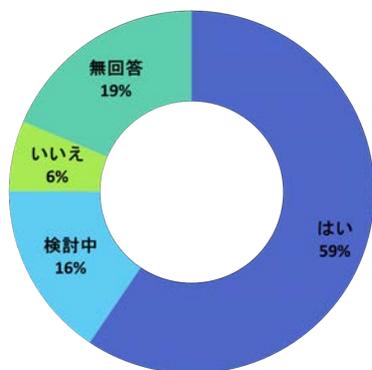
- 地域で活動されている方が多くいらっしゃることがわかってよかった。
- 多世代の交流ができてよかった。この素晴らしい繋がりを生かしていきたい。ずっと続けるにはどうしたら良いか。若手のホープが子ども食堂にいったみたい。親の今回のことを伝えたい。地域の繋がり。
- 子どもの成長とともに地域とのつながりが切れやすいが、やはり持続可能な場づくりが大切と知った。
- 時間が少なすぎる！事例、もっと知りたい。
- 非常に活気のある場と感じた。
- ありがとうございました。
- 飛び込みで参加させて下さりありがとうございました。
- 楽しかったです！
- 二部制だったのでよかった。
- 「事例紹介と交流会の時間配分を」交流会に重きをおいた方が良いのでは？
- 時間を細切れにせず、もう少し深めながら話せるとよかった。
- もう少し時間が欲しい（1人1～2分）
- ディスカッション等、時間が足りない。

- 時間に追われました。慌てました。
- もう少し話し合う時間が必要だった。
- 時間が短く感じた。
- 役所から手紙で届いた子育てに関係したことをやっていたので。

⑤今後、取り上げてほしいテーマ、紹介してほしい取組などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 子どもの居場所についてもっと理解を深める必要がある。
- 子どもの居場所づくりについて、子どもの自殺が増えているという現状を踏まえ、より深く掘り下げて考える必要があると感じた。
- 思春期の親へのサポートのイベントなどあればいいなと思った。子どもが学生を卒業した後は、母親同士のつながりだけが頼りになることが多く、それが一度切れてしまうと、情報もなくなり孤立しやすくなると感じた。
- だじゃれ活用協会（高津区）の子どもとの協力
- 行政と支援（機関）の取り組みについて。
- 同様のもの。実際に「形」に！実践の場作りをしたいので補助金を！
- 今回のテーマで続けて欲しいと思った。
- 本日とても勉強になった。
- グループ全員のお話を十分に聞く時間が取れなかったため、今後はもう少し時間を確保していただけるとありがたい。

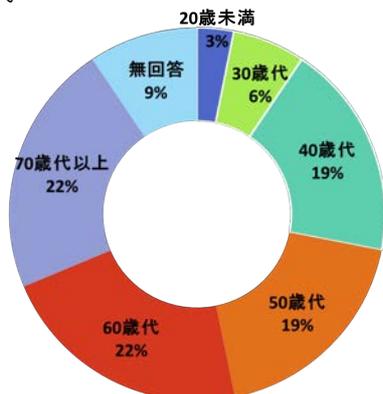
⑥あなたは、現在なにか地域活動をおこなっていますか。



【(はい)の具体的内容】

- 子育てサークル、親子の遊び場、認知症カフェ

⑦年代





【告知フライヤー】



# 高津区地域包括ケアシステム交流会（キラリ事業）

## 子どもの居場所づくり

令和7年  
**3月15日（土）**  
14:00～16:00（13:30開場）

**会場** 高津区役所1階保健ホール  
**対象** 地域で活動されている方、地域活動に関心のある方  
**定員** 30名（事前受付制）



参加費  
**無料**

「子どもの居場所づくり」をテーマに、自らの活動の参考になるような他の地域活動について聞き、参加者同士で交流し、実際につながるの輪を広げる交流会を行います。  
現在、地域活動をされている方はもちろん、これから何かを始めようと考えている方、地域活動に関心がある方もぜひお越しください。

### プログラム

★ **活動事例紹介（14:05～）**  
高津区内で活動する団体の事例紹介や意見交換等を行います。

参加団体		
★ 子育てサロン りぼん	よしおか	みほ
★ コミュニティスペースみんなの森	まつだ	みゆき
★ はっぴいまま 子ども食堂	とばり	まき



**子ども食堂**

吉岡 美穂 氏  
松田 美由紀 氏  
戸張 真紀 氏

★ **交流会（15:15～）**  
地域で活動されている方と地域活動に関心のある方との交流の場を設けます。

**申込方法** **事前受付制** 2/17(月)より受付開始!  
申込みフォームまたは  
電話またはFAX



申込みフォーム



Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市



COLORS  
FUTURE!  
ACTIONS  
KAWASAKI 100th



Green For All  
KAWASAKI  
2024

**問合せ先** 高津区役所地域ケア推進課  
電話: 044-861-3313 FAX: 044-861-3307 メール: 67keasui@city.kawasaki.jp



←地域福祉活動レポート「たかつハートリレー」  
<http://www.city.kawasaki.jp/takatsu/cmsfiles/contents/0000035/35874/index.html>



Carbon Zero Action  
MIZONOKUCHI



脱炭素モデル地区～脱炭素アクションみぞのくち～



高津区は脱炭素社会の実現を目指し、環境配慮型ライフスタイルを推進しています

---

令和6(2024)年度  
高津区地域包括ケアシステム交流会(キラリ事業)  
「子どもの居場所づくり」  
講演録・実施報告書

発行：令和7(2025)年3月  
編集・発行：高津区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課  
TEL 044-861-3313 FAX 044-861-3307